

(イメージ) 大会当日の流れについて

「いい川・いい川づくりワークショップ」は、名前のおり、これぞ“いい川”、“いい川づくり”という事業、活動を全国から募集し、2日間をかけた選考会方式の発表、議論のプロセスを通じて、“いい川”・“いい川づくり”のイメージや評価の視点、取り組みのヒントなどを参加者全員で探り、共有していこうという大会です。

初めて参加いただく方のご参考として、この2日間の大会の流れのイメージを、簡単にご紹介します。

(あくまで例年の流れとなります。今大会で一部変更する場合がありますので、ご了承ください。)

(イメージ写真は、前回大会のものを使用しています。会場は各回によって異なります。)

当日は、適宜、事務局からアナウンスが入りますので、その内容をご確認ください。

ご不明な点、ご不安な点などありましたら、お気軽に事務局までお問合せください。

大会1日目：

まず、会場入口にて、『受付』を済ませてください。

(ご用意いただいた発表用パネルも、「パネル受付」に提出ください。)

『開会式』に続き、2日間に渡る公開選考会は、

全体会場のステージで、全団体が続けて発表する『全体発表会』からスタートします。

1件につき3分間の制限時間で、全エントリー団体が続けて発表を行います。

(この「全体発表会」では、発表のみで、質疑は行いません。)

(発表方法は自由です。パネルや画像(但し、静止画のみ、枚数制限有り(詳しくは応募要項を確認ください。))を利用したり、パフォーマンスをしたり、3分間を自由にお使いください。)



次に、一次選考として『テーブル選考』に移ります。

応募申込書に記された発表内容から大まかなテーマでグルーピングし、いくつかのテーブルに分かれて選考が行われます。

(別会場に分かれることとなりますので、適宜、移動をお願いします。)

(ここでは発表はなく、質疑や討論により、結果として、各テーブルから、次の「全体選考」(二次選考：2日目実施)の対象として各テーブルから1～2件程度が推薦されることとなります。)



その後、再び、全体会場に戻り、『**全体集会**』を行います。

テーブルから推薦された各団体のパネルがステージに並べられ、各テーブルのコーディネーターから、それぞれテーブルからの推薦団体やテーブルでの選考経緯などを、全体の場で紹介します。



* 1日目の選考は、ここまでになります。

1日目終了後に行われる『**交流懇親会**』には、毎年多くの方に参加いただき、全国各地から参加者が持ち寄った「川の恵み」なども展示され、交歓の場となっています。

(交流懇親会の参加は任意です。参加希望の方は、事前にお申込みください。当日は、余裕があれば当日券を若干数のみお売りできる場合もありますが、今回分の当日券の用意は未定です。)

大会2日目：

翌日、2日目の朝は、『**復活選考**』からスタートします。

前日の「テーブル選考」では選外となった中から、2日目当日の、のちの選考(「二次選考」、「最終選考」)の担当になっているコーディネーターやコメンテーターによる投票により、数件が、次の「二次選考」(全体選考会)の対象として新たに追加して推薦されることになります。

(復活選考の会場で、一斉に並べられたパネルを前にポスターセッション形式でのアピールが展開されます。)

(「テーブル選考」のフォローアップとして行われる、この復活選考では、新たな視点、新しい評価軸を持ったものなどが選ばれる場合が多いかもしれません。)



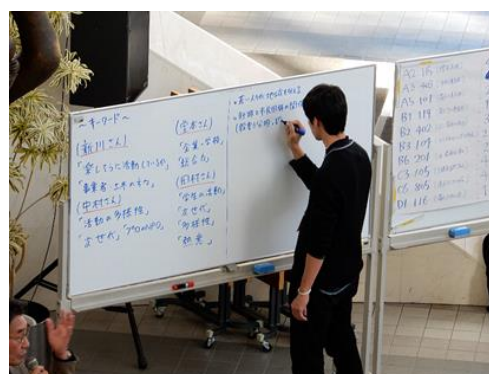
引き続き、全体会場において、『**入選者発表会**』が行われます。

1日目の「テーブル選考」から推薦された団体に、2日目当日朝の「復活選考」からの数件が加わり、「二次選考」（全体選考会）の対象となった団体が、通して各3分間の発表を行います。例年、前日の発表内容からさらに練り上げられた発表が続きます。



そして、二次選考となる『**全体選考会**』です。

入選者発表会を受けて、対象となった発表について、コーディネーターのもと数名のコメントーターにより、“いい川”・“いい川づくり”の視点、キーワードを提示しながらの議論や投票、会場からの応援や意見などにより、さらに絞られた数件が、次の「最終選考」（公開討論会）に付託されます。



いよいよ、最終選考となる『**公開討論会**』へ。

「二次選考」（全体選考会）から付託された数件について、コーディネーター及び数名のコメントーターによる最終選考を兼ねた討論を経て、グランプリほか各賞が決定されていきます。（最後に、各賞の表彰式を行います。）



発表、選考の各過程を通じ、共感とともに議論が深められ、毎回、たくさんの“いい川”・“いい川づくり”のキーワードが拾い上げられていきます！

(参考) いい川・いい川づくりワークショップ …公開選考会の目的と方法の基本的な考え方

選考過程を通じ、さまざまな視点から徐々に議論を深めていく方法は、各地の川への思いや“いい川”づくりの工夫や取組みの術を発見、共有し、さらなる実践につなげていくためのプロセスでもあります。“いい川”とは何か？みんなで意見を出し合いながら、それぞれの川の「タカラモノ」に光を当てる、そうしたプロセスの中で知恵を分かち合いながら、共通のイメージを育てていきます。公開選考会の目的と方法の基本的な考え方は以下のとおりです。

- 応募者は・・・自由な表現方法で発表、アピールします。1件3分間という限られた時間の中で思いや内容を伝えるべく、工夫を凝らし熱のこもった発表を繰り返します。日頃の取り組みを発表し、議論、交流を通じて、新たな発見、取り組みのエネルギーをつかみます。
- 選考会のプロセスは・・・一次選考（グループ分けによるテーブル討論）、復活選考（一次選考でもれた発表の中から再選考）、二次選考（全員が一堂に会して行われる選考会）、公開討論会（最終選考）となっています。この過程の中で“いい川”“いい川づくり”について、参加者とともに議論を深めていきます。
- 選考は・・・実行委員会から選ばれた選考員（市民、行政、学識者など）が中心になって行います。さまざまな視点から総合的に評価しますが、選考を通じて“いい川”“いい川づくり”の新たな視点や評価のポイントを探りだすことがワークショップの大きな目的の一つです。
- 称え合う！・・・選考は優劣を決めるものではありません。2日間を通じた合意の深まり、育みあいのまとめとして、グランプリや入賞を選び出します。入賞者には、実行委員会よりオリジナルの表彰状や副賞を贈呈し、活動の成果を称え合います。

●選考の視点・評価のポイント

- 川の「タカラモノ」に光を当て、「“いい川”“いい川づくり”とは何か」を探る
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としない
- 公開選考会は、以下の4つの選考ポイントにおいて総合評価する
 - ◆ 発想・着眼評価： “いい川”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 - ◆ 関わり評価： 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
 - ◆ プロセス評価： “いい川”を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 - ◆ 計画・技術評価： 川らしさの保全や“いい川”回復のために工夫された計画手法や採用技術についての評価